

第4章 ウェブジン

ウェブジンの歴史と日本での状況

▶ ウェブジンの独立採算は当面なし ◀

ウェブジンとは

WebZineの「Zine」とは、米国の若者層が学内誌やタウン誌など小規模出版で時に無料で配布されている小冊子形態の雑誌を、Timeなどのメジャー誌（Mag.と省略表記されることが多い）に対比して、愛着を込めて呼び始めたことに起源をもつ言葉。そのうち電子ネットワークを経由して配布、閲覧可能なものを「e-zine」と呼び、特にウェブ上で展開されているものを「WebZine」と言うようになった。しかし、Zineの定義のうち「小規模で無償配布」といった性格は、本格的な出版社が参入するうちに消えてしまい、現在では（特に日本では）「出版社などがその編集ノウハウと業務形態をそのままに導入したインターネット上の情報提供媒体」を指すことが一般的になりつつある。しかし、新聞社などが提供するオンライン・ニュース・ペーパー・サイトや、個人が不定期に更新している個人ホームページの中でも積極的なもの、通信社などからの情報を集的に掲載したYahoo! (http://www.yahoo.com/) などのポータル（玄関）サイトなどと区分するのは実質的には困難な状況にある。

ウェブジンの歴史

米国に起源をもつウェブジンの先駆的な存在としては、Time Inc.が94年に開始した「Pathfinder」(http://www.pathfinder.com/welcome/)と、Wired誌の姉妹ウェブにあたるこれも94年スタートの「HotWired」(http://www.hotwired.com/)などが挙げられる。

しかし、前インターネット期にも、全米で地域新聞社や雑誌社がパソコン通信BBS上で情報提供や読者からの投稿受付などを行っていたこと、CompuServeやAmericaOnline (AOL)などが商用オンラインサービス上でウェブジンのプロトタイプにあたるサービスを提供していたことなどを忘れることはできない。

だが、積極的にウェブジンに参入した東部（ニューヨーク、マンハッタン）の「Pathfinder」と西部（カリフォルニア、サンフランシスコ）の「HotWired」は、それぞれ会員制による購読料徴収と広告掲載による無料閲覧というその後二大潮流となる収益モデルをすでに採用していた点は注目すべきだろう。また、広告の街マンハッタンに本拠を構える「Pathfinder」が購読料制、会員制ニュービジネスが盛んなカリフォルニアの

資料3-4-1 ウェブジンの例

発行元	媒体名、URL	ヒット&ビュー数/月(公称)	内容
リクルート	MixJuice →http://www.recruit.co.jp	非公開	「あちゃら」をはじめ各種リクルート発行情報誌のオンライン版があり、生活や遊び情報が満載。検索機能も充実している。
インプレス	PC Watch →http://www.watch.impress.co.jp/pc/	1200万ビュー（98年4月）	電子メールと融合したサービスで、国内外のパソコン関連イベント情報、秋葉原などで調べたパソコン市況動向が充実。パソコン業界のニュースや新製品についてのコラムもある。
	INTERNET Watch →http://www.watch.impress.co.jp/internet/	360万ビュー（98年4月）	電子メールと融合したサービスで、インターネット関連の情報を随時更新して掲載。バックナンバーの記事検索もできる。
日経BP社	BizTech →http://biztech.nikkeibp.co.jp	7820万ヒット、1627万ビュー（98年4月）	経済・経営関連の雑誌や書籍が、内容や最新号目次と共に紹介されている。特に、コンピュータ関連のオンライン雑誌が豊富。
	Live! netn@vi →http://netnavi.nikkeibp.co.jp/top/top.shtml	1888万ヒット、530万ビュー（98年4月）	日経BPの雑誌「日経netn@vi」の内容が掲載されている。インターネットの最新情報やメールサービスの案内のほか、読者が見つけたホームページを紹介するnetN@vi横丁、お薦めサイト情報などがある。
アスキー	ASCII 24 →http://www.ascii.co.jp/ascii24/	165万ビュー（平均）	コンピュータ関連ニュース速報。新製品情報やプレスリリースの紹介のほか、業界著名人によるコラム、秋葉原価格情報、インタビューなどが掲載されている。
NTTPCコミュニケーションズ	CNET Briefs 日本語版 →http://cnet.sphere.ne.jp/	261万97千ビュー（98年4月）	アメリカのCNET Briefsの日本語版。世界の情報通信分野のニュースをはじめ、フリーソフトやゲームに関する情報、業界キーパーソンのインタビューなどが掲載されている。
ソフトバンク	ZDNet JAPAN →http://www.zdnet.co.jp/	3600万ヒット（平均）	アメリカ版ZDNetの日本語版。業界最新ニュースのほか、イベントレポート、コラム、製品情報、ウィルス情報などが掲載されている。
ホットワイアードジャパン (NTT、NTT AD、NTT LS)	HotWired Japan →http://www.hotwired.co.jp/	1200万ヒット、300万ビュー	ウェブジンの先駆け、アメリカ版HotWiredの日本語版。デジタル業界のニュースやウェブテクニクガイドなどの翻訳記事と、日本独自で編集取材された特集、コラム、投票、カルチャーデータベース、デジタルアート、音楽などが掲載されている。
角川書店	Walkers Net →http://walkers.channel.or.jp/	524万2514ビュー（98年4月8日～5/5）	五大都市（東京、東海、関西、九州、横浜）のイベント、コンサート、映画、アートなどのエンターテイメント情報、チケット情報をはじめ、新作ゲーム、ビデオ、CD、出版物の検索が可能。
ぴあ	@ぴあ →http://www.pia.co.jp/	3000万ヒット、900万ビュー（平均）	「Weeklyぴあ」と連動し、イベント情報や、チケット発売速報、口コミランキング「ランキンぴあ」などが掲載されている。PIACARD会員で申し込みをした人のみ、インターネット上で、クレジットカードによるチケット購入が可能。

出所 各社資料を元に編集部で作成

「HotWired」が広告という、地域的な背景とは対極にあるモデルに着目したことも興味深い。

これらの歴史を踏まえ、米国でのウェブジンはインターネットの爆発的な普及に伴い多くの出版社や新聞社から発行され、これらのウェブジンが検索エンジンに次ぐページビューを稼ぎ出すようになった。

日本のウェブジン

一方、日本では、94年末に凸版印刷が出版社や企業、大学など中心にした情報モール「Cyber Publishing Japan」(http://www.toppan.co.jp/) をスタートしたのに数か月遅れ、朝日新聞が95年に米国メディア財閥の1つ、ナイト・リッターと組んだ米国発の「asahi.com」(http://www.asahi.com/) を立ち上げた。加えてコンピュータ系出版会社インプレスなどが本格的にウェブジンに乗り出すと、リクルートや日経BPなど分野性の高い大手出版と全国新聞などのサイトが引き続いてサービスを開始するウェブジンブームがはじまった。現在では、日本でも検索エンジンに次ぐページビューを誇るメガサイトに出版・新聞系のサイトの多くは成長している(資料3-4-1~2)。しかし、これらに共通しているのは、未成熟なインターネット広告市場からの収入に依存しているため、独立したビジネスとしては成立していない点であり、本業である新聞や出版との関係性が不明瞭であることだ。

今後の展開

まだ若干の例しかないが、日本でも米国のように大手ウェブジンや商用オンラインサービスなどが独立系ウェブジンを買収

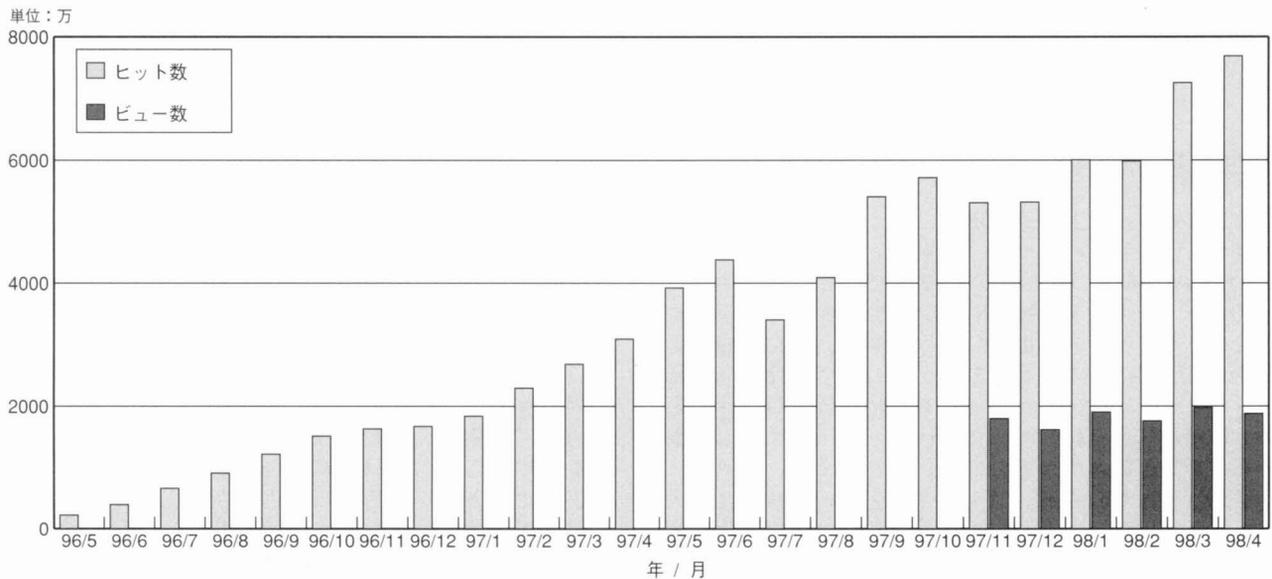
合併したり、異領域ウェブジンのコンテンツを買い取り掲載することでより強力なコンテンツ提供を実現し、広告とそれに関連した複合収益モデルを確立する傾向が強まっている。また、一部の新聞系サイトで採用されている会員制購読料徴収による採算性の向上もSET[®]の普及で現実性を高めつつあるものの、フリーエコノミー文化が根強いインターネット世界では直接的なコンテンツ販売については疑問視する向きが強い。そのためインターネット広告市場の成熟を待ちつつ、オンラインコミュニティの併設など多様なサービスを付加してスポンサー企業からの付随的な収益可能性の高い統合コンテンツサービス・サイトへ発展を模索する傾向が当面続くだろう。

ウェブジンは新聞・雑誌出版社が提供する傾向の高いサービスながら、現状の段階では旧来からの購読+広告という収益モデルだけでは当分の間独立採算することは困難であり、本業である媒体のブランド力強化や延長的付随的なサービス展開として位置付けられることが多い。そのため、初期の米国インターネット世界であったようにユニークな独立系ウェブジンが多数出現し、活躍することは当面ないと予測される。

(森 祐治・マイクロソフト株式会社)

注 消費者がインターネット上で安全にクレジット決済ができるようにビザとマスターカードが提唱した、クレジット決済専用のプロトコル(通信の手順)の統一規格。

資料3-4-2 インプレスのウェブジン (http://www.watch.impress.co.jp/) のページヒット&ビュー数推移



*1997年11月以前のビュー数のデータはなし

出所 (株)インプレスからの資料を元に作成



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp